

地理A，地理B

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

地 理 A

1 前 文

共通テストは、大学（専門職大学、短期大学、専門職短期大学を含む。以下同じ。）への入学志望者を対象に、高等学校（中等教育学校及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）の段階における基礎的な学習の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的としている。

共通テストでは、平成21年告示学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題が重視されている。地理の問題作成方針においても、思考の過程に重きを置きながら、地域を様々なスケールから捉える問題や、地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり、資料を基に検証したりする問題、系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題を含めて検討すると示されている。

なお、評価に当たっては、14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 地図の読み取りと活用、日本の自然環境、自然災害に関して、地図や資料等から地理的諸事象に関する情報を読み取り、地図やGISと自然災害や防災に関する知識を基に、諸地域の自然環境や自然災害について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問1 メルカトル図法の世界地図について、地図上の距離や位置関係に関する見方や考え方を使って、地図に当てはめて考察する良問。

問2 山地の地形を写真や地形図から判読する問題。凹地という言葉だけでカルスト地形と判断すると誤答となり、正確な読図技能が求められた。

問3 日本の各観測地点における気候要素の特徴について、緯度や内陸部と沿岸部、日本海側と太平洋側などの地域性に関する知識を基に考察する良問。

問4 災害と地形条件の関係について、二つの地図を重ねて考察する問題。それぞれの地形条件と高潮の被害の関連が明瞭に読み取れる良問。

問5 河川流域の地形に関する情報を基に、避難経路の特徴について考察する問題。説明文の内容と避難経路とを照らし合わせて検討する良問。

問6 地形や気候等の自然環境と産業等、人々の生活との相互作用について、自然災害の観点から考察する問題。

第2問 世界の生活・文化に関して、地図や資料から読み取って得た情報を基に、各地域にみられる特色を地理的な見方や考え方を働かせて考察する問題で構成されている。

問1 水使用量とその用途について、ヨーロッパとアフリカの統計から読み取って得た地域の特徴に関する見方や考え方をを用いて、北アメリカと東アジアに当てはめて考察する良問。

問2 気候と生活の関係について、写真やグラフから読み取り、熱帯地域の気候や年降水量に関する知識を基に考察する問題。

問3 イギリスとボリビアで見られる移手段について、景観写真や説明文を読み取り、自然

環境や社会・経済状況に関する知識を用いて、各移動手段の特徴を考察する良問。

問4 人々の国際的な往来について、言語の特徴や旅客便数の資料を読み取り、地理的、経済的
近接性などの見方や考え方を働かせて考察する問題。

問5 生鮮品の輸出入について、地図から生産地と消費地の位置関係及び鮮魚・冷蔵品と冷凍
品の内訳を読み取り、それらの傾向を考察する良問。

問6 製造業の地域的特色について、資料から読み取った情報と説明文の内容を結びつけなが
ら、貿易額や主な貿易品と経済状況、資源との関連性を考察する良問。

第3問 北アメリカを事例地域として、多様な資料を読み取り、自然環境や人々の多様性に関す
る知識や理解を基に、地理的な見方や考え方を働かせて考察する問題で構成されている。

問1 北アメリカの自然環境の特徴について、景観写真と地形に関する情報を読み取り、自然
環境の異なる各地域の特色を考察する問題。

問2 アメリカ合衆国の農産物の主な産地について、自然環境に関する知識を基に、農業分布
の特徴を考察する基礎的・基本的な良問。

問3 アメリカ合衆国の州別民族割合について、エスニック集団の分布に関する知識を基に、
地理的近接性や歴史的つながりに関する見方や考え方を働かせて考察する良問。

問4 カナダの都市内部における文化の多様性について、景観写真からそれぞれの地域の文化
的特徴を読み取り、生活文化に関する知識を基に考察する基礎的・基本的な良問。

問5 デトロイトとサンノゼの産業構造と都市問題について、統計や説明文を読み取り、各都
市の産業や都市構造に関する知識を基に考察する問題。

問6 カナダの多様性を重んじる政策の変化について、地図から二つの年の閣僚構成に関する
情報を読み取って比較し、多文化主義の広がりを考察する問題。

第4問 環境問題に関して、様々な観点から世界や日本の現状を図表や写真等から読み取り、知
識や理解を基に、各課題について探究する問題により構成されている。

問1 環境問題に関する国際会議における主張について、地図や会話文からグループの特徴と
主張の内容を読み取り、それぞれの国家の環境問題に対する立場の違いを考察する問題。

問2 プラスチックごみの国際的な取引について、三か国の相関及び主な国の近年の政策を示
した資料を読み取り、各国の輸出量とその変化について考察する良問。

問3 有害物質の流出と拡散について、ライン川で発生した事故に関する地図とその影響を示
した資料を読み取り、時間的・空間的広がりとその影響について考察する良問。

問4 バイオ燃料の導入とそれに伴う新たな課題について、説明文を読み取り、自然環境や農
業に関する知識を基に、導入国の現状と課題を考察する良問。

問5 日常生活が与える環境への負荷について、都市の規模と自家用車の利用割合を示した資
料を基に、自動車の普及や郊外化に関する見方や考え方を働かせて、設定された条件下で検
討し考察する良問。

問6 環境問題に対する取組について、前問までの内容を踏まえつつ、よりよい解決策を考察、
構想する問題。第4問全体を総括し、さらに深い学びへ向かう姿勢が示されており、工夫が
見られる。

第5問 利根川下流域の地域調査に関して、地形図や統計などの多様な資料を読み取って地域の
地理的特徴を概観し、地形と土地利用や防災、地域の成り立ちや変容について地理的な見方や
考え方を基に、見出された地域の課題をさらに追究するための方策を考察、構想する、探究的
な学習過程により構成されている。「地理B」との共通問題である。

問1 流域を示した地図から水系の広がりや標高差を読み取り、縮尺を把握して計算する等の

技能を基に、利根川流域の地理的特徴について考察する良問。

問2 利根川下流域の土地利用の構成について、地形の起伏や都市等の分布を示した地図から読み取り、沖積平野と台地に関する知識を基に、地形と交通条件等を関連付けて考察する良問。

問3 利根川下流域の都市の発展や交通手段の変遷について、新旧の地形図等から変化を読み取り、水運の変遷と自動車の普及に関する知識を活かして考察する問題。

問4 佐原周辺の水害とその対策について、年表や地図から読み取り、防災施設の特徴に関する知識を基に、地形や水が流れる方向等を踏まえて考察し、大規模河川下流域の防災の取組について構想する問題。

問5 ウナギ漁の現状と課題について、レポート資料や写真から読み取り、水産物の需給に関する知識を基に、持続可能な水産業の在り方について考察する問題。

問6 地域の課題を探究する方法について、第5問の各問で考察した内容を踏まえて検討する問題。第5問全体を総括し、さらに深い学びへ向かう姿勢が示されており、工夫が見られる。

3 分量・程度

第1問 大問全体としては標準的な難易度の問題で構成されている。大問全体が、資料から読み取った情報や知識を基に、位置関係や因果関係等を論理的に考察する問題となっており、出題に工夫が感じられる。問題数や文字数、分量は適切である。

第2問 大問全体としては標準的な難易度の問題で構成されている。問3や問5のように、受験者にとっては馴染みがないと思われる問題もあったが、写真や資料を読み取り、地理的な見方や考え方を働かせて考察する良問が多い。問4は、出発案内の写真や往復旅客便数の組合せを選ぶ問題であり、言語から国、位置から航空路線の両方を正確に読み取ることは難しい。全体の問題数や文字数、分量は適切である。

第3問 大問全体としては標準的な難易度の問題で構成されている。大問全体が、北アメリカを事例として、自然環境や農業、人種、景観などを題材とした問題がバランスよく配置されている。問5や問6では、社会保障費や議員数などが取り上げられ、政治・経済に関連した問題であったが、適切な資料と丁寧な説明文によって、論理的に考察することができ、難易度は標準である。設問数や分量、文字数は適切である。

第4問 大問全体としては標準的な難易度の問題で構成されている。問6は、プラスチックごみ、水質汚濁、バイオ燃料、二酸化炭素排出量のそれぞれの課題について、資料から判断する問題となっている。問2や問3のように問題文が長いと感じられる問題もあるが、丁寧に説明した結果であると評価したい。環境問題を文章ではなく図や統計資料から判断させる良問が多い。設問数や分量、文字数は適切である。

第5問 大問全体としては標準的な難易度の問題で構成されている。第5問全体では問題数や分量は適切であったが、問3や問4は、地域の特色を考察する上で有効な図が多く用いられている一方で、問題文の文章量が多く、問いを把握したり、問題を解答したりするのに時間を要するものが見られる。

4 表現・形式

第1問 多様な地図や資料から読み取ったことを基に正誤を判断する問題、基礎的・基本的な知識を問う問題など、全体的にバランスよく出題されている。問2の写真1では読み取りに戸惑った受験者がいたと思われる。

第2問 生活文化について、様々な資料を用いたバランスの良い出題である。問3は各写真に加え説明があり、解答しやすい。二枚の写真に共通する点、片方の写真のみの特徴などを問う形式は新鮮であり工夫が見られる。問6は具体的な国名を伏せていることが特徴的である。

第3問 北アメリカを対象に自然環境や人々の多様性について問う問題である。全体的に与えられた資料を丁寧に読み取ることが求められている。取り上げられた資料の示し方は、受験者にとって馴染みがないものもあるが、いずれも学習した内容に基づくものであり、資料を適切に読み取って考察する力を問う良問となっている。問1の図は、解答と結び付いておらず、身に付けた知識や技能を基に考察したり、読み取って考察したりできるような資料であることが望まれる。

第4問 生徒が「環境問題の解決はなぜ難しいのか」という問いを基に探究活動をするという設定であり、実際の授業場面が想定される。問題全般に馴染みのない資料が多いものの、それらを読み取り、考察することが問われた良問が多い。問題全体を通して文章量が多いが、解答するうえで参考となる記述となっており、論理的に考察できるように設計されたと捉えることができる。

第5問 地域調査を切り口として、生徒が事前調査、現地を訪問して水害や産業について考察する場面を設定しており、その過程は実際の高等学校の授業等の展開事例に近いものであり、適切である。問4で十六島の範囲が明確に示されていないなど、考察を進める上で必要な表現が欠けないよう留意する必要がある。

5 ま と め（総括的な評価）

全体を通して、受験者が地理の授業で学習してきた基礎的・基本的な内容を基に出題されており、問題作成方針に則った出題である。また、学習を通して身に付けた知識・技能を問う問題や、地理的な見方や考え方を活用して考察させることにより思考力・判断力を問う問題、次の学びへ向けて探究しようとする力や問題の解決へ向けて構想する力を問う問題が、オーソドックスな問いから挑戦的な問いまでバランスよく配置されている。大問別に見ると、生徒が自ら問いを立てて探究的に考察する場面設定や、様々な方法で地域を調べて考察する過程が設けられており、学習過程に沿った出題が重視されている。各問題を見ると、避難経路や環境負荷の検討など、真正性を意識した問題が見られた他、現代世界の時事的なテーマを、歴史や公民諸科目の要素を交えながら出題された問題が見られる等、出題方法にも幅の広さが見られたが、一貫して、地理で学んだ成果を実際の文脈や与えられた条件下で応用的に活用する力が身に付いているかどうかを問われている。

難易度で見ると、基本的な程度を標準としながら、受験者にとって難問や易問も配置されている。問題文や資料は著しい過多にならないよう配慮されている。写真等の判読に難がある箇所も見られるが、全体的には資料等が有効に示され、解答時の戸惑いも軽減されたと考えられる。これらの点は、昨年度の要望を真摯に御検討頂き、改善して頂けたものと受け止めている。一方で、一問一問が工夫されている分、全体的に見ると各問の問題文や資料の提示において、もう少しだけスリムになるとよいと感じられる。

以上のことから、安定性と挑戦性を大切にしつつも、形式面、内容面ともに、受験者が地理で学んだり考えたりしてきたことが身に付いているかどうかを評価できる問題がバランスよく出題されたと評価できる。

地 理 B

1 前 文

共通テストは、大学（専門職大学、短期大学、専門職短期大学を含む。以下同じ。）への入学志望者を対象に、高等学校（中等教育学校及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）の段階における基礎的な学習の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的としている。

共通テストでは、平成21年告示学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題が重視されている。地理の問題作成方針においても、思考の過程に重きを置きながら、地域を様々なスケールから捉える問題や、地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり、資料を基に検証したりする問題、系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題を含めて検討すると示されている。

なお、評価に当たっては、14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 世界の自然環境と自然災害に関して、資料や地図から情報を読み取り、地理的諸事象に関する知識を基に、場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、諸地域の地形や気候、自然災害について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問1 気候や気象に関する現象の規模に関する図を読み取り、それらの現象に関する知識を基に、自然現象の時間・空間的スケールを考察する良問。

問2 サンゴ礁とマングローブの分布に関する図を読み取り、それらの形成条件に関する理解を基に、分布に影響を与える自然現象を考察する良問。

問3 世界の4つの都市の気温に関する図を読み取り、各都市の位置に関する知識を基に、緯度と気温の日変化と年変化について考察する問題。

問4 火山と熱帯低気圧の発生に関するメカニズムの理解を基に、大西洋周辺の地図を用いて、自然災害の分布を考察する問題。

問5 日本周辺の地震の震源について東西方向と垂直方向の分布を示した図を読み取り、プレート分布と地震発生メカニズムの理解を基に、日本の自然災害について考察する良問。

問6 降水量と河川水位の時間的変化に関する図を読み取り、都市化とそれともなう地表面の変化に関する知識を基に、都市型水害の発生要因を考察する問題。

第2問 資源と産業に関する大問。各種統計資料や地図の読み取り、題材となる地理的事象が現れる背景知識とその活用が求められる。農業や貿易、工業における環境への配慮といった内容を含み、多様な地理的事象について多面的・多角的に考察する設問から構成されている。

問1 中世ヨーロッパの村落の模式図から土地利用のパターンを読み取り、現在ヨーロッパで広く行われる混合農業が成立する歴史的背景の知識を基に、三圃式農業の特徴を考察する問題。

問2 土地生産性と灌漑面積割合に関する資料を読み取り、各地域で行われる主要な栽培作物や栽培方法に関する知識を基に、各地域の農業の特徴について考察する問題。

問3 遺伝子組み換え作物に関する図を読み取り、世界の農業の経営規模や生産性、食の安全性に関する知識を基に、現代農業の新技术と課題について考察する問題。

問4 世界の畜産業に関する図を読み取り、主要な農産物の生産と貿易に関する知識を基に、

牛肉と鶏肉，羊肉の世界的な生産量と貿易量の分布について考察する問題。

問5 フランスとポルトガルの輸出とその輸送手段に関する図を読み取り，それぞれの国の位置や主要産業，各国の貿易の特徴に関する知識を基に，各製品に最適な輸送手段を考察する問題。

問6 各国の紙の生産に関する資料を読み取り，対象国の人口規模や原料の有無に関する知識を基に，環境意識といった紙の生産に影響する諸要素を考察する良問。

第3問 日本の人口や都市に関して，国勢調査や住民基本台帳に基づく人口移動の報告等，地域の諸問題を探究するための多様な資料を読み取り，人口や都市に関する地理的事象について多面的・多角的に考察する設問で構成されている。

問1 三大都市圏と九州地方，四国地方それぞれとの人口移動の変容を読み取り，東海道・山陽新幹線や本州四国連絡橋の開通に関する知識を基に，地域間の結びつきを考察する良問。

問2 東京都区部の都市化を示す指標の図を読み取り，景気変動等日本経済の動向に関する知識を基に，1970年を100とした指数を用いたグラフを基に変化を考察する問題。

問3 地方都市の内部構造に関する地図を読み取り，中心市街地と郊外の土地利用に関する知識を基に，地図上3地点における周辺景観の変化とその場所を会話文から考察する良問。

問4 過疎市町村における老年人口に占める食料品へのアクセスが困難な人口の割合などを示した階級区分図を読み取り，過疎地域の現状と課題に関する知識を基に，課題の原因や解決する方策を多面的・多角的に考察する問題。

問5 少子高齢化に伴う労働力不足を考える資料を読み取り，従属人口指数の指す意味を理解して，各国の人口構成の将来を考察する問題。

問6 外国からの労働力の受け入れを主題に，イギリスにおける外国生まれの人口に関する資料を基に，近接性や旧宗主国との関係性，EU加盟国の変化を多面的・多角的に考察する良問。

第4問 インドと中国を中心とする地域に関して，多様な資料を読み取り，地域に関する知識や理解を基に，思考力・判断力・表現力等を測る問題で構成されている。自然環境，産業，人口動態等を中心として，地理的事象を多面的・多角的に問うている。

問1 インドと中国周辺の地形，植生，土地利用等に関する図表を読み取り，地形や気候に関する知識を基に，地域の植生や土地利用等の特徴について考察する問題。

問2 インドと中国の行政区における穀物生産に関する階級区分図を読み取り，地域の地形と気候に関する知識を基に，農牧業の分布の傾向性について考察する問題。

問3 インドと中国の行政区における経済状況と出生率に関する資料を読み取り，各国の人口政策や経済政策に関する知識を基に，二か国の出生率や経済格差の変化とその背景について考察する問題。

問4 インドと中国の産業構造に関する資料を読み取り，二か国の産業の特徴に関する知識を基に，インドのICT産業の成長など産業の特徴とその変化について考察する問題。

問5 インド，中国，オーストラリアの三か国間の貿易や人の移動に関する資料を読み取り，貿易や人の移動の背景に関する知識を基に，三か国間の結びつきについて考察する良問。

問6 インドと中国周辺における大気中の物質の季節ごとの広がり等に関する資料を読み取り，季節風や越境する環境問題に関する知識を基に，大気中の物質の季節による違いや国を超えた環境問題について考察する良問。

第5問 利根川下流域の地域調査に関して，地形図や統計などの多様な資料を読み取って地域の地理的特徴を概観し，地形と土地利用や防災，地域の成り立ちや変容について地理的な見方や考え方を基に，見出された地域の課題をさらに追究するための方策を考察，構想する，探究的

な学習過程により構成されている。「地理A」との共通問題である。

問1 流域を示した地図から水系の広がりや標高差を読み取り，縮尺を把握して計算する等の技能を基に，利根川流域の地理的特徴について考察する良問。

問2 利根川下流域の土地利用の構成について，地形の起伏や都市等の分布を示した地図から読み取り，沖積平野と台地に関する知識を基に，地形と交通条件等を関連付けて考察する良問。

問3 利根川下流域の都市の発展や交通手段の変遷について，新旧の地形図等から変化を読み取り，水運の変遷と自動車の普及に関する知識を活かして考察する問題。

問4 佐原周辺の水害とその対策について，年表や地図から読み取り，防災施設の特徴に関する知識を基に，地形や水が流れる方向等を踏まえて考察し，大規模河川下流域の防災の取組について構想する問題。

問5 ウナギ漁の現状と課題について，レポート資料や写真から読み取り，水産物の需給に関する知識を基に，持続可能な水産業のあり方について考察する問題。

問6 地域の課題を探究する方法について，第5問の各問で考察した内容を踏まえて検討する問題。第5問全体を総括し，さらに深い学びへ向かう姿勢が示されており，工夫が見られる。

3 分量・程度

第1問 全体的にグラフや分布図に表された諸事象について，知識に裏付けられた思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。問5は日本とその周辺における地震の東西方向の位置と深度を異なる緯度で判断させるためやや難易度が高い。資料や文章量ともに適切である。

第2問 多様な統計地図やグラフに表された諸事象について，全体的には標準的な難易度の設問で構成されている。問2は東アジア地域の灌漑について想起することが難しく，難易度の高い問題であると考えられる。問4は肉類の生産と貿易に関する見慣れない指標を理解するために時間がかかったと考えられる。資料や設問数は適切である。

第3問 標準的な難易度の設問で構成されている。問1は四国地方と九州地方，三大都市圏の結びつきについては，受験者によっては理解の差が見られたと考えられる。問6はイギリスと各国との結びつきと変容について問うのはやや難しい内容であったかもしれない。資料や設問数は適切である。

第4問 全体として，習得した知識を比較地誌として問う標準的な難易度の設問で構成されている。問1は各範囲の土地利用についての理解に差が顕著に現われ，難易度の高い問題である。問6はPM2.5の発生や飛散の要因を論理的に思考できたかで差が表れたかもしれない。資料や設問数は適切である。

第5問 大問全体としては標準的な難易度の問題で構成されている。第5問全体では問題数や分量は適切であったが，問3や問4は，地域の特色を考察する上で有効な図が多く用いられている一方で，問題文の文章量が多く，問いを把握したり，問題を解答したりするのに時間を要するものが見られる。

4 表現・形式

第1問 自然環境と自然災害に関する諸事象について，考察をするための多様な図表が用いられており，分かりやすい凡例や表現方法によって考察を促す工夫もなされており適切である。

第2問 資源と産業をテーマに地理的事象を理解するための様々な資料を用いて，知識とその活用を求め，多面的に考察する出題形式で適切である。ただし，問2においては，灌漑には水田

の水路を含むことを注釈とするなど、考察の視点を適切に与えるといった工夫が必要である。

第3問 日本の人口と都市に関する諸問題について探究する場面設定であり、全体を通して過疎化の進行や労働力不足などについて生徒が主体的に探究するプロセスが示されており、適切である。地理的事象を理解するための様々な資料を用いて、知識とその活用を求め、多面的に考察する出題形式で適切である。

第4問 インドと中国とその周辺地域の比較や地域全体をテーマとしており、地図やグラフなど多様な資料が用いられることで、地域的特色の理解や地域間の結びつき、構造や変化について問う設問構成となっており適切な出題形式である。問5の示し方には工夫が見られた一方、問6では季節ごとの図の読み取りに苦労した受験者が多かったと考えられる。

第5問 地域調査を切り口として、生徒が事前調査、現地を訪問して水害や産業について考察する場面を設定しており、その過程は実際の高等学校の授業等の展開事例に近いものであり、適切である。問4で十六島の範囲が明確に示されていないなど、考察を進める上で必要な表現が欠けないよう留意する必要がある。

5 ま と め（総括的な評価）

問題作成の基本的な考え方及び地理の問題作成方針に沿って、平成21年告示の学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を測定するための良問で構成されている。特に、高等学校教育で身に付けた、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くための文章や統計資料、主題図といった様々な資料の読解力が試される試験となっている。

第3問と第5問で場面設定がなされ、特に第3問は、高校生のみならず社会人を登場人物に加え、社会生活や日常生活の課題を考察することで、身近な事象が地理的な見方・考え方をを用いて捉えることが可能であることを暗示した問題となっている。第2問は6問のうち5問が第1次産業を題材とした大問となったが、全問題を通して高等学校の「地理B」で学習する内容の理解を必要とする工夫がなされている。また、第5問の間6では、実施した地域調査から生じた新たな疑問を解決するための設問が設けられ、探究の視点が設問に意識されている点も特筆したい。

全体的には適正な難易度であり、引き続き全ての問題で受験者にとって初見となる資料が付され、これらを着実に読み取り、多面的・多角的に考察することが求められたが、昨年度に比して大問ごとの解答に要する時間が均等化され、改善がみられる。しかし、第2問の間2や第3問の間1、第4問の間1など、各大問に1つ程度の学習量に比して正解が得にくい問題が存在し、最上位群においても正答率が60%を下回る問題が7問あるなど、高得点を取りにくい状況は依然として継続しており、高等学校教育の学びの実態に即した程度や表現・形式に留意して問題の対象地域を精選したり、注釈を加えたりといった改善をお願いしたい。

全体を通して、高等学校での学習内容を元にした思考力を問う問題や探究活動の過程を再現する問題が随所に見られ、高等学校における授業改善の指針となる試験である。